

盛夏の候となりました。碧空下を流れる白雲を窓越しに眺めれば「おーい雲よ、ばかに呑気そうじゃないか」という名詩を思い出して呼びかけたくになります。物事に抵抗することなしに大宇宙と一体化して悠々と浮遊するあの雲のようになりたいという願いは、我々地球人の次元を超えた事なのでしょうか。たぶんそうではないでしょう。万人にその可能性が与えられているものと確信します。

さて、去る六月一七日に入院して以来、早くも二カ月が経過しようとしています。こんなに長引くとは思いませんでしたが、今は早く治りたいという焦りよりも「体をうんと休養させよ」という内部の宇宙の意識（神）からの指令だったのだと達観して、むしろ宇宙の意識に感謝しております。

★ご迷惑をかけたお詫び

ユーコン誌146号は七月二〇日に発行予定でしたが遅れてしまい、まことに申し訳ありません。実際には九分通り編集と割付は完了していましたが、急拠の入院となつて何もかも放置したまま家を出たものですから気がかりです。本部役員達が残りの編集をやつちまおうと言つてくれますので、それは大変有難いのですけれども、そのためには私が全員を集めて編集の方法を詳細に説明する必要があります。そうなれば病院から半日の休暇をもらつて帰宅する必要がありますが、これが案外に困難なのです。しかし不可能は存在しないという言葉を鉄則として頑張ってみましょう。

★あらためてア全集第一巻に感動

私が長期入院生活中に持ち込んで読んだ本はただ一冊。それは新アダムスキー全集第一巻の「第二惑星からの地球訪問者」です。これをくり返し熟読しましたが、これ以上の素晴らしい書物が世界のどこにあるぞ！と感動の連続でした。私が思うに、この書物は新約聖書に匹敵するか、またはそれ以上の価値を有すると確信しますものの、そのように認められるのは早くて来世紀の半ば頃でしょう。

この書物を読み直して腹の底から感じたのはファークン氏の次の言葉です。

「人間は生き方を変えようとしなにかぎり救われるものではありません」（二一七頁）

全巻を私が翻訳したのですから大体に全ての訳文を記憶しているはずなのですが、そうもゆかず、あらためて読み直して「おや、こんな個所があつたのか！」と驚くことしばしばです。

★第一回関西支部大会、大盛況

去る七月二五日に大阪堺市で開催された第一回関西支部大会は五〇名の参加者を得て大成功だったそうです。ご来場下さった方々に厚く御礼を申し上げます。私は残念ながら入院中のため出席できず、すべてを本部役員の加藤幹事に託しておきましたが、うまくやったようです。それにしても私がいるのといないのでは大違いのようですから、今後は極力健康に留意して皆様にご迷惑をかけぬよう努力するつもりです。

★今年度総会迫る

今年度の総会も一〇月一〇日に開催の予定でして、万端の準備をととのえております。今年は超能力者でコンタクトティーとしても名高い秋山眞人先生のご講演を予定しており、演題は「二〇〇〇年以降の未来予測とUFO問題の将来について」となっています。素晴らしい内容が展開するでしょう。詳細な予告はユーコン誌146号に掲載の予定です。この号の発行が遅れるようならば、別に詳細なチラシを全員に配布致します。多数の方々のご来場をお待ちしております。

★アメリカ西部の旅、大好評

例によってアメリカ西部の旅の企画は大好評を博し、七月末現在で旅行社に対する正式な参加申込者は定員数の三五名となりました。これでもって今年度のイベントは終了します。

★不滅のファーンコン氏の言葉

前述のとおり私は長期入院中に持ち込んで読んだ本はただ一冊。全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」だけ。それほどに私がこの書物の内容に傾倒していることはこれでお分かりと思います。ただし私の翻訳が拙いので、それだけが気がかりですが、とにかく内容は驚倒的なもので何度読み返しても、これが地球人の手によって書かれたとは信じられないほどです。ましてやジョージ・アダムスキーが空想によって捏造したという初期の非難攻撃は幼児の騒ぎです。もし空想で書かれたものとすればアダムスキーは超一流のミステリー作家といえるでしょう。

しかしそんなことよりもこの書物には珠玉のような箴言しゆんげんが全編にちりばめられており、これ一冊でもって旧新約聖書を上回るほどの真理の言葉に満ちています。特に深い感銘を受けるのは火星人ファーンコン氏の次の言葉です。

「私たちはあなたがたの言う失望なるものを知りません。それは消極的な言葉です。ずっと昔、私たちは信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力などを学びました。昨日失われたゴールを明日は勝ちとることができます」(二七九頁)

これ以上の素晴らしい言葉を私は知りません。しかも四〇年近い昔に初めて翻訳したのに、今もって私の心中に焼きついて離れないのです。特に病床にあれば尚更です。皆様方は如何でしょうか。

★ユーコン誌発行の遅れのお詫び

さて肝心のユーコン誌146号がひどく遅れて全く申し訳ありません。もう少しお待ち下さい。本部役員たちを動員して何とか完成させるつもりです。秋山眞人先生の異星人長老との質疑応答集が圧巻です。これは冒頭に掲載の予定です。

全く今年は厄年でした。しかし七〇歳半ばも生きれば、平穩無事で過ごせるのが不思議なほどです。それですべてさえ私は幼少の頃から何度も大病をわずらってしかもいずれも奇跡的に助かっているのですから、何かの御加護があるものと思えませんが。後年土方生活うきほうを三年間やって健康を取り戻し、徴兵検査で胸囲が少し不足したために惜しくも甲種合格をはずれて第一乙種合格として現役兵にとられて入隊した松江連隊の同年兵数千名が戦死したのに、私はその組からはずされて助かったのですから、これも何かの御加護によるのかもしれない。インド哲学的に言えばカルマによるものでしょう。それにしても二一、二歳の頃、松本航空隊にいた当時の健康そのものの軍隊生活がなつかしく脳裏を去来します。残虐であった旧日本軍を賛美するのではなく、健康であった当時の我が身を回想して過ぎ去った青春を美わしく思うのです。戦争論に関しては別な機会にゆずりましょう。

〈追加情報として本部役員幹事 加藤純一より〉

★関西支部大会観光に現れたUFO

前述の通り七月二五日に大阪府堺市で開催された第一回関西支部大会は大成功のうちに終了しましたが、それを祝福するかのように大会前日に行なわれた観光では度々UFOが出現し、参加したほとんどの会員が目撃することができました。これは毎度のことですが、久保田先生によると、「GAPの活動自体がSB(スペース・ブラザーズ、友好的な異星人)に注目されているためである」ということで、今回も素晴らしい光景が眼前に広がりました。この観測会は観光終了後の五時から大阪湾内のサンタマリア号の乗場付近に集合し、まず参加者全員で大宇宙思念法を行なった後に各自自由に空を見

上げるといふスタイルを取りました。結局終了までの六時すぎまで三回の出現があり、参加者二名のほとんどが目撃できました。その中で見事にビデオ、カメラ撮影に成功した関西支部の宇野秀樹氏の詳細な報告によると、夕方五時五十分の第一発見から合計三回の出現があり、方角的に北西に位置する神戸市の六甲山方面上空に出現していたようです。参加者の中には生まれてはじめてUFOを目撃したという会員の方もおり、意義深い観測会だったと思います。また、今年一〇月に開催される総会の翌日観光でもUFO観測会を盛り込む予定です。特に今回は一部の会員では有名な明治神宮が観測場所になりますのでこちらも大いに期待できます。

★関西支部大会で上映したスライド類について

今回の第一回関西支部大会では予定されていた久保田先生のご講演が不可能となったためにプログラムの内容を急遽スライド上映に切り替えました。このスライド上映はおおむね好評だったようで大会終了後も参加者から質問を浴びせられましたし、代表の小原明氏からも賛辞をいただきまして恐縮しました。

このスライド類はアダムスキーが撮影したスカウトシップや母船、またかつてデザートセンターを訪れた際に撮影したコンタクト地点や円盤着陸地点、馬の鞍、パロマーガードンズ、アリスウェルズ女史が経営していたレストラン跡地、クラークホテルなどアダムスキーの著作に関連した場所などを網羅したスライド類と会員が撮影したUFOを併せて一六〇枚もの超大作となりました。特にUFO関連はスキヤニンングディスク、スカウトシップ、母船という順番で目撃談を交えながら詳細に紹介しました。今回このスライド類を本部役員団と共同編纂して改訂して改訂して改訂したのは、会員の方々と本部役員が撮影したUFO写真が確実に増えつつあり、いずれそれがUFO実在の揺るぎない証拠になるであろうという予感です。

★特殊な団体 日本GAP

UFOの撮影に成功するようになってから写真掲載の件で出版社やテレビ制作会社の方々とお話しする機会が増えてきましたが、その中で「日本における大小のUFO研究団体の中でGAPのように会員がUFOを頻繁に撮影するというのは他の団体にはない」というお話しをお聞きしたことがあります。しかも目撃においては群を抜いており、このことから日本GAPがいかに特殊で、本物の団体であるかがわかります。このような外部からの正当な評価が時に我々を奮起させる場合があるのです。

前述の関西支部大会前日に行なわれたUFO観測会には以前反アダムスキー派（コンタクト否定論者のグループ）の団体に所属していた会員の方が「今まではその団体にいてUFOを見たことがない」と率直に教えて下さいましたが、その直後に実際にUFOが現われたものですから本人は「GAPに来て早速UFOが見れた！」と目を輝かせて喜んでいました。UFOの出現はそれ自体が祝福なのでですから否定論者も一度で諦めずに何度でも空を見上げてほしいものです。

以前、久保田先生が個人的な会話の中で「アダムスキー反対派の人間は意外にも現地調査や証言された人々への直接取材などをしてしないで体験記だけを読んで現在の地球の常識に照らし合わせて否定しているだけだ」と否定論者の態度を一蹴していました。計らずもコンタクティイとして名高い秋山眞人先生も先日お会いした時に久保田先生と全く同様の見解を述べているのを聞いて驚いた次第です。

★UFO写真の意義

その秋山先生にお聞きしたところによると我々地球人が撮影したUFOの写真というのは深い意味があつて撮影させているということでした。ですから関西支部で上映したようなUFO関連のスライドや、本部が推奨しているUFO写真展も非常に有効だということでした。秋山先生によれば撮影した本人や、その写真を見た人間にどのような影響があるのかなどを含めた総合的な波及効果がある程度予測して撮影させるといふ壮

大な説をお聞きしました。かくいう私もその翌日にまたも超低空で飛ぶUFOを写真に撮りましたのでいずれUコン誌をはじめその他の紙面で公表できるだろうと思っています。ちなみに最近私がUFO撮影用として使用しているのが久保田先生からお借りしているニコンFE2、35mm200mmズーム付きの一眼レフカメラです。操作の方もずいぶん慣れてきたためか今回の出現時にも慌てずに撮影できました。

★第二回関西支部主催UFO写真展大成功

八月五日〜一〇日までの六日間に渡って開催された関西支部主催のUFO写真展が大好評のうちに終了しました。関西支部としては今年で第二回目となる写真展ですが、今回の写真展は兵庫県宝塚市にある「ART SQUARE」GYALAREY & FREESPACEにて開催されました。関西支部写真展担当の角谷聡氏の報告によると、実はこのギャラリーは日本GAP会員で歯科医の膳（かしわで）努先生の奥様が経営されているギャラリーで、膳先生のご尽力で今回の開催とあいなったとのことで、膳先生自身も写真展をすることで知らせる運動の一翼を担うのが長年の夢だったそうので、会期中も毎日顔を見せられ、スタッフや招待した友人の方と歓談され、本当に嬉しそうだったということです。また、来場者の中にはGAPの会員もいらつしやったとのことですが、これは関西一円に送付した関西支部大会のDM（ダイレクトメール）に今回のUFO写真展の件を併記してあったのをご覧になった方々が来場されたとの報告がありました。アンケートの回収率も大変高く来場者の約半数がアンケートに記入されていたようです。

なお、今後写真展の開催については本部役員会が日程の調整や貸し出しについて手配しますのでお問い合わせは加藤宛書簡にてお願いいたします。折り返し申し込みの詳細をお知らせいたします。

★アメリカ西部の旅について

おかげさまで持ちましてアメリカ西部の旅は定員の三五名に達し、七月末をもって申し込みを終了させていただきました。前回の意識の声では久保田先生の参加が伝えられていましたが、今年はゆつくりと静養していただくために今回の旅行には同行されませんので参加者の皆さんはどうかご了承下さい。私（加藤）もデザートセンタには合計六回ほど訪れていますので不慣れではありませんし、現地では久保田先生の代行としてアダムスキー氏やG・H・ウィリアムスン博士の原書を片手に正確に説明できるようなビデオや全集の一卷、Uコンの調査記事等を熟読して旅行に備えるつもりです。

また、旅行の日程についても若干の変更がありますがその分全体的にそれぞれの訪問地をゆつくりと見学できるように検討中です。いづれ旅行手配会社のスバルツーリストと本部役員会から参加者に対して正式な文書を発送する予定です。また久保田先生によるとこの旅行ではダニエル・ロス氏夫妻も現地で合流するというので、ずいぶん賑やかな旅になるでしょう。

★本部役員会について

久保田先生、日本GAP本部に対するボランティア（本部役員）は現在私を含めて八名。その他に本部役員補佐として四名の女性陣が月例セミナーその他の運営を手伝っています。このような時期だからこそチームワークを発揮して月例セミナーや総会、海外研修旅行その他の行事を成功させるべく楽しく遂行してゆく所存です。

七、八月のセミナーに引き続き九月のセミナーでも趣向を凝らし満足のゆくような内容をご提供できるよう役員会一同連日のように打ち合わせをしておりますので、今後とも特別維持会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

暑い日が続いておりますが皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

合掌再拝